

横浜市感染症発生動向調査報告 8月

《今月のトピックス》

- ヘルパンギーナの流行警報が発令されています。
- RSウイルス感染症が例年より早く増加傾向となっています。
- 流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

全数把握の対象

【8月期に報告された全数把握疾患】

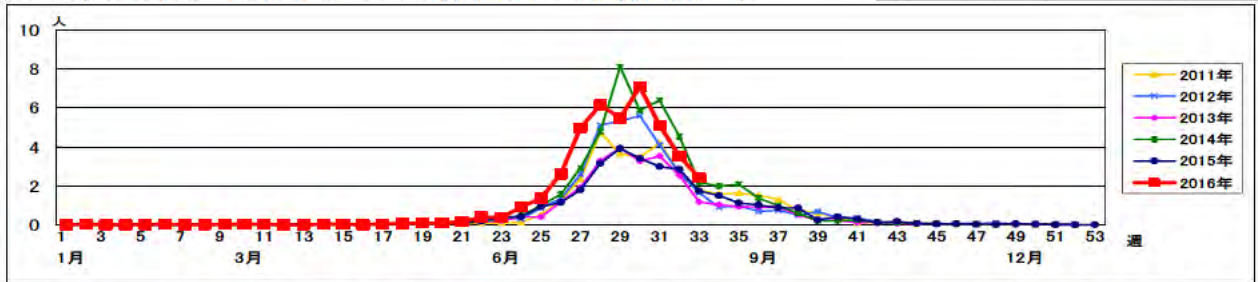
細菌性赤痢	1件	急性脳炎	2件
腸管出血性大腸菌感染症	22件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	5件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
ウイルス性肝炎(E型およびA型を除く)	1件	梅毒	10件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件		

- 1 **細菌性赤痢**:1件の報告があり、ミャンマーでの経口感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**:22件の報告のうち(5件は無症状病原体保有者)、O157が20件、O145とO26が1件ずつで、家族内発生事例も報告されています。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状のある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- 3 **E型肝炎**:3件の報告があり、2件が経口感染と推定され、1件は感染経路等不明でした。
- 4 **レジオネラ症**:5件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 5 **アメーバ赤痢**:6件の報告があり、1件は国内の詳細不明の性的接触、2件が国内での経口感染、2件がタイでの経口感染が推定され、1件は感染経路等不明でした。
- 6 **ウイルス性肝炎(E型およびA型を除く)**:C型の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:5件の報告があり、うち2件は医療器具等関連感染、2件は以前からの保菌と推定され、1件は感染経路等不明でした。
- 8 **急性脳炎**:2件の乳幼児の報告がありました。いずれも病原体不明です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:G群が1件報告され、創傷感染が推定されています。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:5件の報告があり、うち1件がAIDS、3件が無症状病原体保有者、その他が1件でした。感染経路は、同性間の性的接触が2件、異性間の性的接触が2件、感染経路等不明が1件でした。
- 11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:1件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 12 **侵襲性肺炎球菌感染症**:4件の報告があり、うち1件はワクチン接種歴が確認されましたが、3件についてワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 13 **梅毒**:10件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)があり、いずれも国内の性的接触でした。同性間が1件、異性間が8件、詳細不明が1件でした。

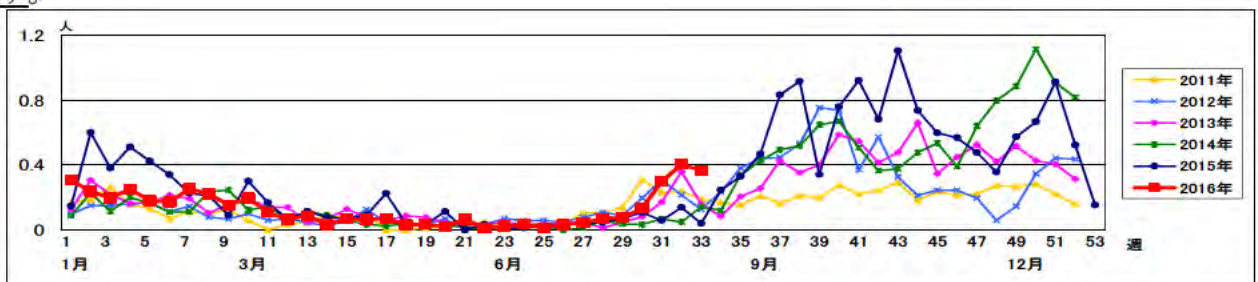
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第30週	7月25日～7月31日
第31週	8月1日～8月7日
第32週	8月8日～8月14日
第33週	8月15日～8月21日

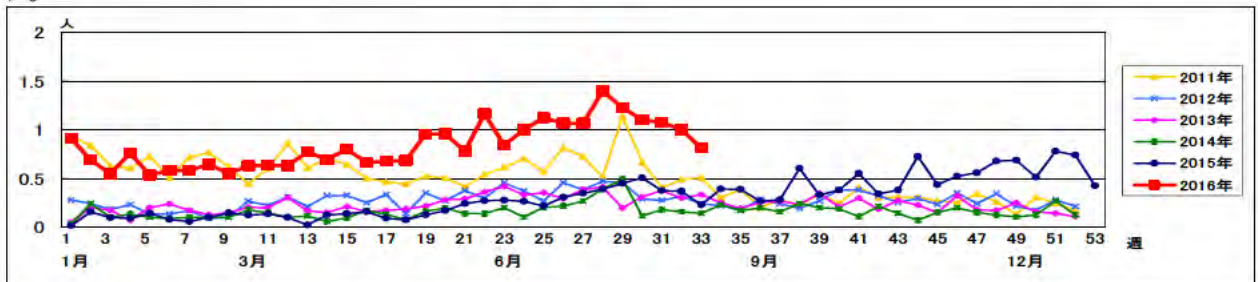
- 1 ヘルパンギーナ: 第28週にて市全体で定点あたり6.15となり、流行警報発令基準値(6.00)を上回りました。第30週に7.08となって以降は減少し、第33週は2.41となっています(警報終息基準値は2.00)。



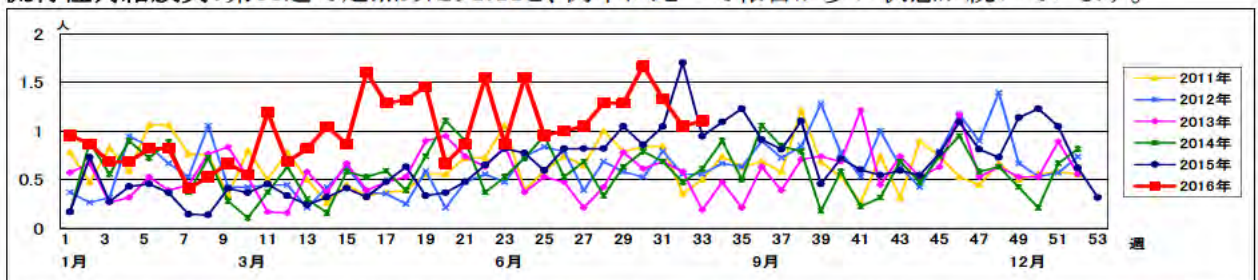
- 2 RSウイルス感染症: 第31週で定点あたり0.30、第32週で0.40と例年に比べて早く増加傾向となっています。



- 3 流行性耳下腺炎: 第33週で定点あたり0.81と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 流行性角結膜炎: 第33週で定点あたり1.11と、例年に比べて報告が多い状態が続いています。



- 5 性感染症: 7月は、性器クラミジア感染症は男性が20件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性10件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が1件でした。
- 6 基幹定点週報: 無菌性髄膜炎は第30週0.00、第31週0.00、第32週0.00、第33週0.33と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第30週0.33、第31週1.67、第32週0.00、第33週0.33と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報: 7月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点8件、眼科定点4件、基幹定点18件で、定点外医療機関からは8件でした。

9月9日現在、ウイルス分離11株と各種ウイルス遺伝子43件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 熱	無 菌 性 髄 膜 炎	流 行 性 耳 下 腺 炎	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病	感 染 症	パ レ コ ウ イ ル ス	R S V 感 染 症	敗 血 症 疑 い ・ 意 識 障 害
アデノ 2型		1										
アデノ 3型		1		1								
インフルエンザ AH3型			2									
パラインフルエンザ 1型	1 2											
パラインフルエンザ 3型	2	3										
パラインフルエンザ 4型		1										
ヒトメタニューモ	4	2										
RS		1									1	
ヒトコロナ*1	1											
ムンプス						2						
ヒトヘルペス 6型								1				
ライノ		1										
コクサッキー A 2型	1						1					
コクサッキー A 4型	3			1			3					
コクサッキー A 6型	3							1				
コクサッキー A 10型	1						1					
コクサッキー B 3型	1				1		1					
コクサッキー B 5型	1				2		1					
パレコ 3型									2			1
エコー 3型	1											
合計	3 18	1 9	0 2	1 1	2 2	2 0	2 5	0 2	0 2	0 1	0 1	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、*1:HCov 229E or NL63、HCov OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎は、基幹定点から18件、その他が17件で、赤痢菌(*S. sonnei*)、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2が11件、O157:H7,VT1&2が5件、O26:H11,VT1が1件、O145:H-,VT2が1件)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H-,LT&ST)、腸管凝集性大腸菌(O114:H10)、サルモネラ(*S. Enteritidis*、*S. Saintpaul*、*S. Hadar*、*S. Ohio*、*S. Panama*、*S. Amagar*)が検出されました。

その他の感染症は小児科定点から1件、基幹定点から2件、その他からが66件でした。バンコマイシン耐性腸球菌は*vanA*遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎								
菌種名	検査年月		8月			2016年1月～8月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	18	17	0	80	55
赤痢菌			1			1	2	
腸管出血性大腸菌			4		14	6	33	
腸管毒素原性大腸菌			1			2		
腸管凝集性大腸菌			1			2		
チフス菌						2		
サルモネラ			7			20	2	
カンピロバクター								1
黄色ブドウ球菌						1		
不検出			0	4	3	0	46	17
その他の感染症								
菌種名	検査年月		8月			2016年1月～8月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		1	2	66	27	38	303
A群溶血性レンサ球菌	T1					3		2
	T3					1		
	T4					2		
	T6					1		
	T12					3		1
	型別不能					12		2
B群溶血性レンサ球菌								1
G群溶血性レンサ球菌					3		2	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌							4	
バンコマイシン耐性腸球菌				1			1	2
レジオネラ属菌								1
インフルエンザ菌								5
肺炎球菌							5	38
黄色ブドウ球菌						1		
結核菌					49			175
百日咳菌							2	
ボツリヌス菌								1
その他					10		12	38
不検出			1	1	4	4	12	33

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】